

ろう。「^{下カ}神マ」は第八七次調査出土木簡にもみえる『木簡研究』第八号、大宰府跡・不丁地区⑤。両者の関連性を考えるべきであろうが、ともに上半部を欠いていることもあって、「下」字の解釈が容易でない。

以上、第九八次調査出土木簡について簡単に報告した。個々の内容はともかく、基本的な性格は前号などで報告したSD二三四〇出土木簡と共通すると考えられるので、総括は省略する。前述のように、この溝からは一七二点が出土したわけであるが、年紀をもつなど個々の内容もさることながら、大宰府史跡ではこれほどのものがまとまって出土した例はないので、これらは単に新史料というだけでなく、今後の大宰府研究にも資するものといえるだろう。

二月山東官衙地区

(1) ×□六□半

(22)×(27)×2 081

腐蝕が著しく、削屑に近い断片である。具体的な内容などは明らかでないが、何らかの数量を記したもののようであり、本来は付札的なものであった可能性も考えられる。当地区から出土した最初の本簡であり、また柱穴から出土した点でも初めてである。

9 関係文献

九州歴史資料館『大宰府史跡―昭和六一年度発掘調査概報』(一九八七年)
(倉住靖彦)

―長岡京出土墨書土器の概要と考察―

『向日市文化資料館研究紀要』 創刊号

「東土川西遺跡の弥生土器

―乙訓地域における第5様式(庄内式)土器の変遷―

国下多美樹

「長岡京の墨書土器」

清水 みき

B5版 51頁 一九八七年増刷

『向日市文化資料館研究紀要』 第二号

「墨書土器の機能について」

―都城(長岡京)の墨書土器を中心に―

清水 みき

「長岡京廃都以後の土地利用」

山中 章

B5版 48頁 一九八七年発行

△申込先▽ 向日市文化資料館

〒617 京都府向日市寺戸町南垣内40-1

TEL 〇七五-九三一-二八二

頒 価 各五〇〇円
送 料 各二〇〇円